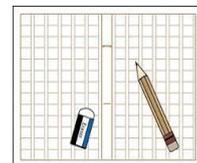




# どくしょかんそうぶん か 読書感想文を書こう！



読書感想文とは、本を読んで、自分が感じたこと、考えたことを伝える文章です。  
書くことによって、自分の考えが深まります。

## ① 本を選ぼう！

- 自分のお気に入りの本  
(何度も読み返している本や、強く心に残っている本)
- 登場人物が、自分と身近に感じられる本  
(同じ年くらい。好きなことやスポーツが共通。似た体験がある)
- ノンフィクション(実際にあった話)  
(疑問に思っていることや、知りたいことが書いてある本)



## ② 本を読もう！

- 1回目は楽しみながら読もう！
- 2回目は心が動いたところにふせんを貼ったり、メモをとりながら読もう。  
(「感動した」「共感した」などはもちろん、「すごい!」「知らなかった!」「ハラハラした」「わたしだったらこうする/こうしない」など)



## ③ 書いてみよう！

物語のあらすじにそって順番に書くのではなく、感想文の中心になることを1つか2つ決めてから書いてみましょう。

〈たとえば〉

- 一番心に残った場面やことから(なぜ自分の心が動いたのか)
- 登場人物の生き方や考え方、行動について、自分と比べてどうなのか
- 本を読む前の自分と、読んだあとの自分の気持ちの変化 など

## 〈組み立て方〉

中心にすることが決まったら、感想文を組み立てましょう。感想文を「はじめ」「なか」「おわり」の3つで組み立てるのも、ひとつの方法です。感想文の中心にすることを「なか」にもってきます。中心が2つある場合は、「なか1」「なか2」というように、「なか」が2つになります。

## 「はじめ」

〈たとえば〉

- 本を読んだきっかけ
- 本を読む前に題名を見て思ったこと
- 本を読む前の自分の気持ちや生活 など

## 「なか」

〈たとえば〉

- 一番心に残った場面やことから。なぜ、心に残ったのかを説明。
- 登場人物の生き方や考え方、行動のなかで、好きなところや、自分とにているところ、ちがっているところをを考えて書く。
- ノンフィクションの場合は、新しく知ったことや、本を読む前に思っていたこととちがっていた内容を書く。
- 実際に自分で体験してみた感想を書く。 など

たいせつ！

読書感想文で一番大切なのは、その本を読んで自分（の考え）がどう変わったか、です

## 「おわり」

- 本を読む前と後で、自分の考え方が、どのように変わったか。
- 本から学んだことを、自分の生活のなかに、どのように活かしていくか。 など

### かんそうぶん ④感想文のタイトルをつけよう！

感想文のタイトルは、自分が一番伝えたいことからつけると良いです。

- 感動したことや、テーマをタイトルにする
  - 心に残った言葉やセリフを題名にする
  - 「なぜ〜」「どうして〜」と疑問をタイトルにしてもおもしろい。
- 本を読んで学んだことを短い言葉にしてタイトルにしましょう。内容にあわせて、最後に決めよう。



## 【令和5年度 読書感想文課題図書】

### 【低学年の部】

- 『それで、いい!』  
磯 みゆき(ポプラ社)
- 『よるのあいだに…』  
ポリー・フェイバー(BL 出版)
- 『けんかのたね』  
ラッセル・ホーバン(岩波書店)
- 『うまれてくるよ海のなか』  
高久 至(アリス館)

### 【中学年の部】

- 『ライスボールとみぞ蔵と』  
横田 明子(鈴木塾出版)
- 『秘密の大作戦!フードバンク  
どろぼうをつかまろ!』  
オンジャリ Q・ラウフ(あすなろ書房)
- 『化石のよぶ声がきこえる』  
ヘレイン・ベッカー(くもん出版)
- 『給食室のいちにち』  
大塚 菜生(少年写真新聞社)

### 【高学年の部】

- 『ふたりのえびす』  
高森 美由紀(フレーベル館)
- 『5番レーン』 ウン・ソル(鈴木出版)
- 『魔女だったかもしれない  
わたし』  
エル・マクニコル(PHP 研究所)
- 『中村哲物語』  
松島 絵利子(汐文社)